告示番号 10　**皮膚疾患**　**平成（　　）年度 小児慢性特定疾病　医療意見書**

受給者番号（　　）	新規登録 ・ 継続 ・ 転入 （転出地：　　）				
患者	ふりがな 氏名	男 ・ 女	生年月日	平成　年　月　日（満　歳）	
出生都道府県※1		出生体重	g	出生週数	在胎　週
現在の身長※2	.　cm	現在の体重※2	.　kg	母の生年月日	昭和 平成　年　月　日
発病	年　月 頃	初診日	年　月　日		
大分類病名	3 表皮水疱症	細分類病名	8 表皮水疱症		
病型	以下から1つを選択 □ 単純型　□ 接合部型　□ 栄養障害型　□ 未確定				

※1 出生都道府県は母子健康手帳に記載されている出生した際に出生届を提出した住民票の所在地を記入

※2 現在の身長・現在の体重は小数点1位まで記入

1.臨床所見

現在の症状

該当するものに○をつけ、必要な場合には（ ）内に記載

皮膚の水疱、びらん	（ なし ・ あり ）	粘膜の水疱、びらん	（ なし ・ あり ）	瘢痕形成	（ なし ・ あり ）
稗粒腫形成	（ なし ・ あり ）	指（趾）間癒着	（ なし ・ あり ）	掌蹠角化	（ なし ・ あり ）
脱毛	（ なし ・ あり ）	爪変形・爪脱落	（ なし ・ あり ）	歯牙形成不全	（ なし ・ あり ）
栄養障害	（ なし ・ あり ）	関節拘縮	（ なし ・ あり ）	食道狭窄	（ なし ・ あり ）
有棘細胞癌	（ なし ・ あり ）				

運動機能　（ 寝たきり ・ 座れる ・ 歩行障害あり ・ 歩ける ・ 走れる ）

家族内同症　（ なし ・ あり → 患児との続柄：　　）

診断の根拠となった症状

軽微な機械的刺激により皮膚（ときに粘膜）に容易に生ずる水疱　（ なし ・ あり ）

出生時から乳幼児期の発症かつ症状の持続　（ なし ・ あり ）

薬剤、感染、光線過敏、自己免疫、亜鉛欠乏、魚鱗癬様紅皮症による水疱を除外　（ できない ・ できる ）

2.検査所見

診断の根拠となった主な検査等の結果

該当するものに○をつけ、必要な場合には（ ）内に記載（数値を用いて具体的に。継続は現在の状況を記載）

組織検査

皮膚生検　（ 未実施 ・ 実施 → 所見：　　）

電顕による観察　（ 未実施 ・ 実施※ ）

※実施の場合 →　水疱部　病理学的水疱形成部位（ 表皮内 ・ 接合部 ・ 真皮内 ・ 不明 ）

非水疱部　トノフィラメントの凝集（ なし ・ あり ・ 不明 ）

ヘミデスモソームの低形成（ なし ・ あり ・ 不明 ）

係留線維の減少（ なし ・ あり ・ 不明 ）

凍結切片の蛍光抗体法による基底膜抗原局在検査　（ 未実施 ・ 実施※ ）

※実施の場合 →　水疱形成部位（ 表皮内 ・ 接合部 ・ 真皮内 ・ 不明 ）

基底膜蛋白発現（ 正常 ・ 異常 → 所見：　　）

遺伝子診断　（ 未実施 ・ 実施 → 所見：　　）

3.その他の所見

その他の現在の所見など

合併症　（ なし ・ あり → 幽門閉鎖症 ・ 筋ジストロフィー ・ その他（　　））

4. 経 過

現在の治療

在宅処置　（ なし ・ あり ）

過去の主な治療・検査など

創傷被覆材の使用（ なし ・ あり → 商品名（　　）、平均的使用量（　　）平方センチ/月 ）

5. 今後の療法方針

在宅処置の必要性（ なし ・ あり ）　創傷被覆材の使用の必要性（ なし ・ あり ）

就学・就労	1. 就学前　2. 小中学校（通常学級・ 通級 ・ 特別支援学級）　3. 特別支援学校（小中学部 ・ 専攻科を含む高等部） 4. 高等学校（専攻科を含む）・高等専門学校 ・ 専門学校/専修学校など　5. 大学（短期大学を含む）　6. 就労（就学中の就労も含む） 7. 未就学かつ未就労　8. その他（　　）
現状評価	一つに○印 ： 治癒 ・ 寛解 ・ 改善 ・ 不変 ・ 再発 ・ 悪化 ・ 死亡 ・ 判定不能 小児慢性特定疾病 重症患者認定基準に該当： しない ・ する ・ 不明　人工呼吸器等装着者認定基準に該当： しない ・ する ・ 不明
治療見込期間	入院　年　月　日 から　年　月　日 まで 通院　年　月　日 から　年　月　日 まで（ 月　回 ）

上記の通り診断します。

医療機関名
および
所在地

科

平成　年　月　日　医師名　印

小児慢性特定疾病指定医番号